変化こそが生き残る鍵

東京農工大学　学長　大野 弘幸

国立大学を取り巻く環境はますます厳しくなっています．財政的な面でもひと昔のようなゆとりは無くなってしまいました．そのため，先生方は教育の傍ら研究費を自分で稼がなくてはならなくなり，申請書の作成や打ち合わせなど，ますます忙しくなっています．それに追い打ちをかけるのが評価システムの導入です．我々は国民の税金で雇われており，教育・研究を行うのであるから，活動状況を報告することは当然であると言う意見には従わざるを得ません．大学自体も評価され，翌年の運営費交付金に影響が出るようになっています．日本全体が近視眼的になり，短期の成果を追い求めるようになってきているので,「こんな状況の中で，どっしり構えて基礎研究ができるか！」と皆さん思っています．私もそう思います．しかし，このような状況下であるからこそみんなで知恵を出し合い，工夫することにより，他大学ではできないようなウルトラ C を見事に決めて，目先にとらわれない骨太の研究と，元気な学生を育て，質を保証して送り出す教育の両立ができないでしょうか？様々な観点から考えるとたくさんアイディアが出てくると思います．

では，現在こうした生き方を阻害しているのは何でしょうか？横並びの評価システムはその一因だと思います．現状の分析とタスクの重要度を勘案し，やるべきことを厳選する．先生方はオールラウンドプレイヤーであることを止め，得意とすることに尽力する．それぞれの先生方のタスクが違うことを理解すれば，大学の生活はもっと楽しくなり，みんなが元気に熱意を持って教育と研究に携われるようになると思います．

世の中の変化は私たちが考えているよりもずっと速いようです．教育方法も大きく変化している中で育ってきた高校生が本学に入学してきた時に,「やはり大学は凄いなぁ！」と言わせ，本気で学ぼうという意欲を持たせるような環境を作り上げるには，どうすればよいのでしょう？考え方だけでなく具体的な行動指針も変えてゆく時が来ています．変化するのは今からでも遅くありません．

現状に不平を言っているだけでは何も解決しません．みんなで変化しましょう．突然変異のような大きな変化を起こし，今までとは違ったスタイルで大学を動かしてゆきましょう．10 年後に生き残っている大学であるために！

目　次

○巻頭言　　大野 弘幸　（東京農工大学 学長）

○特集「大学教育センターのこれまでとこれから」

・「大学教育センター活動を振り返る」

梅田 倫弘（大学教育センター長／教育担当理事・副学長）.....1

・「少子化の進展と大学の生き残り」

岡山 隆之（国際センター長／広報・国際担当理事・副学長）.....9

＜特別寄稿＞

・「大学教育センターの発展的改組と伺って」

亀山 純生（東京農工大学名誉教授）.....11

・「大学教育センター発足の頃」

佐藤 勝昭（東京農工大学名誉教授／科学技術振興機構）.....13

・「教育改革のための原動力」

小笠原 正明（北海道大学名誉教授／（一社）大学教育学会常務理事）.....17

・「成果の見える大学教育改革を」

森 和夫（技術・技能教育研究所）.....19

・「創業から 13 年を経て思う」

菅沢 茂　（実践女子大学教職課程）.....21

・「大学教育センターの誕生と終焉」

国見 裕久（東京農工大学名誉教授）.....23

○研究論文

・「技術経営を指向したコミュニケーションスキル向上教育とその効果」

北原 義典（工学府産業技術専攻）.....25

・「三大学協働基礎ゼミの試み―ポスターセッションを通じた学び―」

市川 桂（大学教育センター）.....35

○報告

・「東京農工大学学習管理システム（moodle）の利用状況

林 一雅, 村越 奈美子, 辻澤 隆彦（総合情報メディアセンター）

江木 啓訓（電気通信大学） 43

・「スポーツ健康科学科目の現状と方向性」

田中 幸夫（工学部生命工学科），田中 秀幸（工学部生命工学科），

下田 政博（農学部地域生態システム学科），岩見 雅人（工学部生命工学科），

福本 寛之（農学部地域生態システム学科） 47

・「教育実習を経験した学生の気づきに関する調査報告」

三浦 巧也（先端健康科学部門） 51

・「東京農工大学における博士人材キャリアイベント開催報告」

岩田 陽子（大学教育センター） 55

○センター活動報告 65

○センター専任教員活動報告 67

○センター運営委員会議題 77

○編集方針・投稿規定・教育データの取り扱いに関する指針 80